



令和4年度 事業報告書

特定非営利活動法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク

2022 年度を振り返って

コロナ 3 年目になる昨年、いくつかのワークショップはコロナのために中止・延期のものもあったが、公演に関しては実施することが出来ました。1 年間を振り返ってみたい。

まず「コンテンポラリーダンス新進振付家育成事業 2022」として行った「KYOTO CHOREOGRAPHY AWARD 2022」。全国から 39 組の応募をいただき、書類選考会を経て、6 組が、1 月 28 日 29 日京都市民ホール・アルティにて上演、アワード審査を行った。

昨年大きく感じたことは、若手振付家の意識や作品が、大きく変わってきたことである。作品に対する向き合い方、突き詰め方が、以前に比べてかなり成長してきていると思った。そして作品のことをしっかりと自分の言葉で説明できるようになっている。これは、この KCA が作品だけではなく、アフターディスカッションも審査の対象になるということが浸透してきて、説明もしっかりと稽古をしてきたという話を聞いた。なかなかアワードを決めることが難しく、選外になった振付家も僅差の違いであった。これは、コンテンポラリーダンスが次の時代に入ったかなということを感じさせた。

2021 年に引き続き「Choreographers 2022」を静岡・沖縄にて行った。静岡は、当初地元の作品も入れて 3 作品での上演を予定していたが、静岡公演のきっかけとなった 2020 年度の KCA 京都賞の受賞者・下島礼紗さんのその時期上演可能な作品がケダゴロ「ビコースカズコース」しかなく、セットの都合上、1 作品の上演となった。

一方沖縄は、地元作品の振付家がなかなか見つからず、以前よりコミュニティダンスプロジェクトで知っていた沖縄出身、現在東京でダンスの勉強中の米須香音さんを抜擢し、初めて作品づくりに挑戦してもらった。この作品が、とても今の沖縄を表していて、これをきっかけに振付家の道を歩んでくれることを期待している。沖縄は、コンテンポラリーダンス公演がほとんどないために、多様性を知ってもらうために KCA 受賞者の横山彰乃さんの作品と、振付家山下残さんの 20 年前に制作した「横浜滞在」を上演。20 年たっても現代性があり、多くの観客の共感を得た。

一方集客には大変苦労をした、沖縄は、地元出演者による多大なる協力のおかげで、満席になったが、静岡はしばらく JCDN も事業を行っていなかったのも、かなり大変であった。普段コンテンポラリーダンス公演を行っていない地域においては、公演を決めることと、その地の新しい観客を作っていくことを初めから同時に行わないと、公演自体が成立しないことを切実に感じた。

「ダンスでいこう！！2022」は、札幌、名古屋、松山(愛媛)は 2020 年度からの継続、山代温泉(石川)とオンライントークが、新しく始まった。山代温泉は、山田洋平さんという振付家とパートナーの振付家/ダンサーの横谷さんが、10 年前に海外から戻ってから、拠点にしている場所である。山代温泉にある 寺を中心に若手振付家を対象とした講座と公募による作品制作を行った。講座が、空間をテーマに、建築、華道など異業種の専門家の空間に関する話が大変参考になった。そして劇場空間ではなく山代温泉に存在するスペースを利用した作品制作も有効であった。

「舞台制作者を知る」オンライントークでは、同じ制作者としても普段あまり聞くことのない制作者の話を聞くことが出来たのと、学生参加を無料にしたこともあり、様々な大学から 24 人の学生の参加があり、とても充実したプログラムとなった。

継続の札幌、名古屋、松山も、前回は踏まえての内容づくりを行い、どうしたら振付家が生まれ、育つのだろうかという目的に向かって、充実したプログラムになっている。継続して行うことによって、その地域の振付家育成のための拠点となっていった欲しい。

「三陸国際芸術推進事業 2022」では、後述のように様々な事業を行った。しかしコロナになって佐東自身、丸 2 年ぶりに大船渡での芸術祭に行った以外は、すべて ZOOM でのミーティング参加と、マッピングと記録集の増版・配布という京都の事務所で可能なことを行っていた。以前のように JCDN がすべてにかかわる形ではなく、大船渡の“みんなのしるし”、盛岡の“いわてアートサポートセンター”、東京の“全日本郷土芸能協会”が各事業の担当事務局となり、その全体を、事務局として 2 名の専属スタッフが盛岡にいる体制が整ってきたおかげである。文化庁の「日本博」の委託が継続となっているので、プロデューサーとして全体の方向性に関わっていく形になっている。

9 年目を迎えた「こちかぜ(東風)キッズダンス」、1 年目から参加していた子供が、もう中学生となって、ファシリテーターのアシスタントをしてくれるようになったことが何よりも大きくうれしい出来事であった。PHOTO BOOK の後半に、その中学生になった子たちを交えての座談会が収録されているが、その内容が、大変興味深く示唆に富んでいる。JCDN 内部では、10 年を区切りに終わったほうが良いのかなということを話していたが、その子たちの話を聞いたら、とんでもない、どこまでも続けていこうという勇気をもらえた。なかなか 10 年同じ子供たちを対象にワークショップを行うプロジェクトはかなり稀なことである。どこまで続くか、どのように広がるか楽しみだ。

ダンスアーティストを小中学校に派遣する「文化芸術による子供育成推進事業ーコミュニケーション能力向上事業ー」も、沖縄、大津(滋賀)、堺(大阪)で継続している。以前は先生との事前ミーティングで、子供たちの表現力を伸ばしたいという声が多かったが、最近は子供たち同士のコミュニケーションに課題があり、言葉を用いないダンス体験によって子ども同士の関係を構築しなおすきっかけにしたい、という切実な話を聞くようになった。SNS の普及やコロナによる制限が影響していると聞く。また、担当した先生から他の先生に話が伝わり、ぜひ来年は自分の学校に来てほしいという要望も増えてきている。

10 年越しに公開が出来たウェブサイト「コミュニティダンスのすすめ」は、徐々に登録者が増え、全国でこんなに地域におけるダンスの活動が行われていることが、見える化されてきた。

ほか、京都府「学校・アート・出会いプロジェクト」「創造的なダンスによる、子どもはぐみプロジェクト 2022」など、コロナに負けずに実施することが出来ました。詳しくは報告文をお読みください。

各事業が継続的かつ手ごたえを感じることが出来るようになってきている一方、これらの事業をほぼ 2-3 人で回さざるを得ない状況が続いており、新たなスタッフの確保と、そのための経済的安定をどのように行えるのが、大きな切実な課題になっている。助成金というある意味不安定な資金確保だけではなく、安定的に資金を確保できる方策を真剣に考えないと、時間をかけて培ってきたネットワークの核が崩れてしまう。日々、目の前のことに追われるだけではなく、将来を見据えて、真剣にその持続可能な方法を実験的にしても始める時期に来ているように思う。

何か良いアイデアがありましたら、ぜひご提案いただけましたらありがたいです。

今後ともどうぞ、よろしくお願いいたします。

2023 年 6 月 20 日

NPO 法人 JCDN 代表 佐東範一

目次

I. 事業部門

1. 国内のダンスアーティストの育成と創造環境作り ————— p.5

・「コンテンポラリーダンス新進振付家育成事業 2022」

I 新進気鋭の振付家が世界に羽ばたくためのアワード:

「KYOTO CHOREOGRAPHY AWARD 2022—若手振付家によるダンス公演 & 作品を巡るディスカッション—」

II 全国の公共ホールとのネットワークによる再演プラットフォーム:

「Choreographers 2022」静岡・沖縄公演 ————— p.6

III 振付家を目指す若手を対象とした各地のプログラム:

「ダンスでいこう!! 2022」札幌、山代温泉(石川)、名古屋、松山(愛媛)、オンライントーク—— p.8

2. 文化芸術による被災地の復興支援 ————— p.13

・三陸国際芸術推進事業 2022

I 三陸国際芸術祭 2022 彩 ————— p.13

II 三陸芸能短期留学(アーティスト・イン・レジデンス(A.I.R)) ————— p.14

III 三陸芸能マッピング事業

IV 三陸国際芸術祭 2014-2021 記録集「三陸×アジア、未来へ」の増版及び配布

3. 「すべての人がダンスと出会う」機会を作る、コミュニティダンス

・「こちかぜ(東風)キッズダンス

—東山区発の、ダンスによる子ども育成を通じた地域力創造プログラム 2022 ————— p.16

・ウェブサイト・コミュニティダンスのすすめ— Community Dance in Japan on web ————— p.17

4. 子どもたちの創造力・表現力・コミュニケーション力を育む、創造的なダンス教育の普及

・文化庁「文化芸術による子供育成推進事業—コミュニケーション能力向上事業—」〈NPO法人提案型〉 — p.18

・京都府「学校・アート・出会いプロジェクト」 ————— p.22

5. コンテンポラリーダンスを用いた、社会的課題への取り組み ————— p.23

・「創造的なダンスによる、子どもはぐくみプロジェクト 2022」

6. その他、講習・政策提言・アドバイザー等 ————— p.24

・2022 年度公共ホール現代ダンス活性化事業 コーディネーター(神前)

・2022 年度(財)地域創造調査研究部門委員(アウトリーチに関する研究調査)(神前)

・令和4年度文化庁長官表彰受賞(佐東)

II. 会員部門

1. コンテンポラリーダンスに関わる情報の発信 —p.24

・JCDN 会員サービス等

I. 事業部門

1. 国内のダンスアーティストの育成と創造環境作り

「コンテンポラリーダンス新進振付家育成事業 2022」

<https://choreographers.jcdn.org/2022/>

＜事業主旨＞

コンテンポラリーダンスの振付家が生まれ、育ち、新しい作品が生み出される環境を全国のオーガナイザー（運営団体）と連携しながら形創っていきます。日本のあらゆる場所が起点となり、他の分野や地域の公共団体やホールなどと協働し、未来に向けて、ダンスの今を切り開いていきたいと思っています。

1-1. 新進気鋭の振付家が世界に羽ばたくためのアワード：

「KYOTO CHOREOGRAPHY AWARD 2022—若手振付家によるダンス公演&作品を巡るディスカッション—」

＜趣旨・内容＞このアワードは、新進気鋭の振付家の次なる活動へのステップとなることを目的に、作品発表の機会と賞を設け、観客と共に作品を巡るディスカッションを行います。審査委員にダンスのプロデューサーや評論家、他分野の専門家等を招き、京都賞・奨励賞・ベストダンサー賞などを決定します。各賞は、作品の完成度・魅力だけではなく、振付家の未来に対する期待を含めた後押しとなる事を目指すものです。

第2回目となる2022年度は、全国39組の応募の中から書類選考にて6組を選出し、京都府民ホールALTIで2日間に分けて上演。1日3組の上演後にディスカッションを行い、2日目の夕方に各賞の授与式を行いました。また、リアルタイム配信を行い、全国どこからでも視聴できるようにしたほか、劇場及び配信双方のリアルタイムに鑑賞された方々に観客投票を行い、観客賞を決定しました。

＜概要＞

■日程：2023年1月28日（土）18:00 開演・29日（日）15:00 開演（アワード受賞者発表 29日 19:30 頃 ※配信有）

■会場：京都府立府民ホール ALTI

■料金：劇場鑑賞チケット：前売 3,000 円／U25・障がい者* 2,000 円／高校生以下 1,000 円（各日）／2 日通し 5,000 円
オンライン視聴チケット各日 2,000 円／2 日通し 3,000 円

■振付家・作品（一次書類選考選出） * 振付家名・グループ名・活動拠点・作品タイトルの順に表記

【28 日】亀頭可奈恵／tantan（東京）「愛と誠。」 池ヶ谷奏、藤村港平（新潟・神奈川）「対象 a」 女屋理音（埼玉）「エピソード」

【29 日】Aokid × たくみちゃん（東京・神奈川）「HUMAN/human」/岡田玲奈、黒田勇／Null（東京）「Own Own」/大森瑠子（東京）「Help」

■入場者数：劇場 105 人 / オンライン 160 人

■受賞者および作品

【KCA 京都賞】大森瑠子「Help」、池ヶ谷奏、藤村港平「対象 a」

【KCA 奨励賞】岡田玲奈、黒田勇／Null「Own Own」

【オーディエンス賞】大森瑠子「Help」

【ベスト・ダンサー賞】池ヶ谷奏（池ヶ谷奏、藤村港平「対象 a」出演）

【黄金 4422 AIR 賞】Aokid × たくみちゃん「HUMAN/human」



■アワード審査委員：石井達朗、唐津絵理、黒田育世、高嶺格、寺田みさこ、三上さおり、鷺田めるろ

■書類選考委員：浅井信好、dB 文、鄭慶一、萩谷早枝子、林慶一、松本千鶴、森嶋拓、神前沙織、一般社団法人ダンスアンドエンヴァイロメント

■参加振付家のアンケートより(Q 参加して得たこと、感じたことなど)

◎自分の作品について上演だけでなく、言語的なプレゼンテーションをする機会が得られたことは良い点であった。それに対してオーディエンスのフィードバックが得られたことや、他の振付家の考えを聞くこともできた。

◎今後活動の幅を広げていく上でフィールドの拡大の第一歩を踏み出せたと思います。また、審査員の方々と直接お話してきたのはとても良かったです。結果が出て終わり、というコンペが多い中で、個別にご意見いただいたことは今後の糧になります。

◎他の出演者や審査員の方々との交流、そして観客とのディスカッションは自分のことを改めて見つめ直す良い機会となりました。

◎日本では“再演”するという機会も少なく、自分で企画するにも集客や資金面でも負担が大きく難しいことです。そのような中でこのアワードは再演できる場としての助成が整っており、振付家としては参加するだけでも大きなチャンスとなりました。アフタートークまで審査基準に入っていることで、創ることに加えて言葉にして考えること・観客目線に立つこと・作品の中核などが明確になり、また作品のみでは伝わりきらなかったところまで届けられ、作品や振付家自身にもより興味を持っていただくきっかけとなったと感じています。

◎作品を上演する場というものと、その作品を評価する視点で見てもらえる場、そして観客の皆様ともダイレクトに作品について話し合える場が融合しており、とても作品の「踊り手」に限らず「つくり手」として有意義な場でした。今プログラムでは作品全てに振付家の色があり、その色はとても貴重な物で、今後も作品を創作していく中でその色は忘れてはいけないと改めて感じました。

◎本来の本拠地ではないところで踊らせてもらい、いつもと違う地域の人に見てもらったことで、またいつもとは違う意見をもらえたことです。そして、今後自分達がどのように活動していけばいいのかなどをしっかりと見つけることができ、向いてるもの、向いてないものが明確になりました。



1-2. 全国の公共ホールとのネットワークによる再演プラットフォーム：

「Choreographers 2022」

＜趣旨＞「Choreographers」は、振付家に光をあて、社会に対して発信すること。振付家、そしてダンス作品の価値や社会的意義を積極的に打ち出し、新しいダンスの観客を開拓すること。作品を再演する機会が増えることによって、作品が成長すること。これらを目的に行う公演&トークのプログラム。2022 年から全国の公共ホール等と連携し、ダンス作品を再演する機会を継続的に形作ることを目指すプログラムです。上演作品は、KCA2020 受賞者の作品のほかに、各地域のダンス状況を踏まえて、ゲスト作品や地元ゆかりのある振付家の作品などを紹介します。

2022 年度は静岡と沖縄の 2 地域で開催しました。

静岡公演『ケダゴロ「ビコーズカズコース」Because Kazcause』

■日程:2023年3月2日(木)20:00開演(プレトーク19:00~19:45)

■会場・共催:静岡市清水文化会館 マリナート・小ホール

◎公演前プレトーク:「社会とコンテンポラリーダンス作品の関係!？」

石井達朗(舞踊評論家)×吉田純子(朝日新聞社 編集委員)

■料金:前売3,000円、U25(25歳以下)1,000円 ※当日は500円増 ■観客数:109人

■関連WS:「下島礼紗の振付の世界を知る、振付家・ダンサーのためのワークショップ」(3/3)

■上演作品:「ビコーズカズコース」Because Kazcause 振付・構成・演出:下島礼紗 出演:伊藤勇太、木頃あかね、小泉沙織、中澤亜紀、下島礼紗(以上、ケダゴロ)、浅川奏瑛、大西薫、鹿野祥平(東京乾電池)、竹内春香、菊永沙紀 カンパニー制作:林 慶一、韓ヨルム

■制作・運営:JCDN、静岡市清水文化会館マリナート カンパニー制作:林 慶一、韓ヨルム



沖縄公演『次代の振付家によるダンス作品トリプルビル&トーク』

■日程:2023年3月12日(日)18:00開演 プレトーク17:00~17:45(16:45開場)

■会場:那覇文化芸術劇場なは一と 小劇場

■振付家・上演作品:横山彰乃 lal banshees「海底に雪」*KCA2020奨励賞

米須香音「沖縄の空はいつも曇り」*初演

山下残「横浜滞在」*ゲスト作品

◎公演前プレトーク:「こんなものまでダンスなの!? 秘蔵映像と最新情報で語るコンテンポラリー・ダンス徹底ガイド」
乗越たかお(作家・ヤサぐれ舞踊評論家)

■料金(全席自由):一般2,700円/U25・障がい者*2,000円/高校生以下1,000円 ■観客数:205人

■関連WS:「横山彰乃の振付の世界を知る、振付家・ダンサーのためのワークショップ」(3/13)

■沖縄公演制作:小川恵祐 沖縄ワークショップ制作協力:国仲正也(鳩ス)

■参加振付家・出演者のアンケートより(Q 参加して得たこと、感じたことなど)

◎何かを観に劇場に足を運ぶことはあっても、講演を聞きに行くという事はほぼ無いという方は多いと思うので、上演とセットで講演が行われるのは良い取り組みだと感じました。

◎クリエーションを通して、踊り手への言語化ができたように感じ、結果として続けていけるレパートリー作品になった。地方公演の場合、関東に暮らす出演者が告知をしにくい(しても意味がないと思ってしまう)ので、告知のコンテンツが振付家に焦点を当てたものだけでなく、出演者が告知しやすいコンテンツがあると良いのかと思った。

◎20分越えの作品を作るのは今回が初めてだったので、そのこと自体が挑戦でした。この経験で舞台での作品の作り方の引き出しを増やすきっかけになったと思っていますし、踊るだけでは無い全ての面で私にとってはどれもプラスになることでした。今後の作品作りにおいて自分の作り方を少し確立できてきた気がします。

◎コンテンポラリーダンスは重くて、暗くて、しんどい、と思っていましたが、今回、若い振付家の方との作品づくりで、とても軽やかに、前向きで強く、作品に参加できました。チームの力、それをつくりだし、まとめ上げる作家の力、とても勉強になりました。(米須作品出演者)

■観客アンケート

◎全く異なる 3 作品を続けて観て、コンテンポラリーダンスの幅広さを実感することができました。プレトークと合せてとてもおもしろかったです。

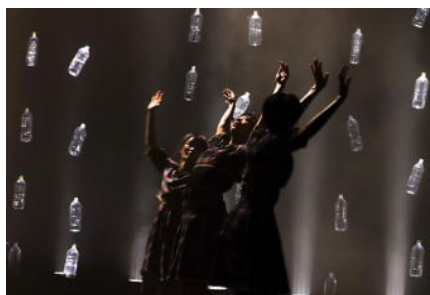
◎沖縄ではコンテンポラリーダンスの公演は少ないので、もっと色々と観たいと思いました。三者三様、それぞれ作品を楽しめました。

◎コンテンポラリーダンスは、見れば見るほど不思議でした。

◎コンテンポラリーダンスのことは、わからないことの方が多いけど、興味をもつきっかけになった。

◎今までバレエやミュージカルなどストーリーがわかっているものを表現しているものは観てきたけど、コンテンポラリーは初めてでした。いろんな振付家による、いろんな作品、表現の仕方がありとても新鮮でした。

◎コンテンポラリーダンスって何か分からないまま来ました。公演中、鳥肌が立ったり、涙が出てきたりしました。コンテンポラリーダンスが何か分からないままでした。でもまた、観てみたいと思いました。



1-3. 振付家を目指す若手を対象とした各地のプログラム：「ダンスでいこう！！2022」

＜趣旨＞ダンス作品を創り始めた人やこれから創ろうとする人を対象に、各地域のオーガナイザーがその地域に適した育成プログラム(ワークショップ、トーク、公演など)を考案・実施します。他に、コンテンポラリーダンスの創造環境全体の向上に寄与する人材を育成するプログラムも実施します。

札幌プラットフォーム『ダンスに没頭する四日間』

運営：北海道コンテンポラリーダンス普及委員会（報告：森嶋拓）

■趣旨・内容：ダンス、振付、歴史、バレエ、創作、舞踏、即興、市場分析、自己分析、研究。朝から晩まで、様々な要素の踊りに没頭し続ける四日間。1 コマの時間を 90 分程度に設定し、講師達が入れ替わりで実技から座学まで様々な講義を行った。また、フィードバックやディスカッションの時間を多く設け、対話を行いながら講義を進めた。

■日程：2022 年 7 月 28 日(木) 13～21 時/29 日(金) 10～21 時/30 日(土) 10～21 時/31 日(日) 10～14 時

■会場：CONTE-SAPPORO Dance Center, Sōla Art-Retreat

■参加者：大学生 2 名／社会人 9 名(芸術関係 5 人、その他 4 人)／小学生 1 名 計 12 名



■**事業の成果**: 達成度は 120% といっても過言ではない。4 日間でありとあらゆるダンスの要素を詰め込むことができた。受講者は長時間に渡り拘束し続けられたが、会場の開放感のおかげでストレスを感じることなく、ダンスに没頭することができた。

■**課題**: 受講者の声を聞くと、本事業のような場がまだまだ少なく、こういった機会を多く創出することが必要だと痛感させられた。4 日間という限られた時間の中では 120% の達成度を感じたが、一方であくまでもたった 4 日間の成果に過ぎず、今後どのように発展させていくかが課題となる。

■参加者の声

・内容や環境が充実していて、それがその時だけで終わらず、思い出としてお土産として長いスパンで影響してくる壮大さあった。

・さまざまな専門領域を持った講師の方々に触れることができ、ある共通の事柄に対してもさまざまな視点から思考することができました。

■実施後の効果

4 日間でダンスが劇的に上手くなるわけでも、素晴らしい作品を急に作れるようになったりするわけでもないが、意識と視野という面で確実に変化が起きていました。それが具現化されたのが最後に自分達で作ったステイトメントで、今後も彼ら彼女らの未来を見守り、サポートしていければと考えています。



松山プラットフォーム『カラダで TRY ANGLE』

運営:(有)オフィスモガ (報告:オフィスモガ)

■**趣旨・内容**: <体験する> <創る> <観る> の3つの事柄が、それぞれに重なり合い、豊かなダンスの土壌に育つこと目的に実施。京都を拠点に活動する振付家・ダンサーの東野祥子さん(ANTIBODIES Collective)を迎え、オーディションワークショップを開催。選出されたメンバーで9日間のクリエーションを行い成果発表公演行った(2回公演)。また、同日に「ダンスを語る場」を実施。ナビゲーターに戸舘正史さん(松山ブンカ・ラボ ディレクター)を迎え、東野さん・観客・出演ダンサーがダンスについて語り合う時間を設けた。

クリエーションワークショップでは、参加者12名が東野さんのディレクションにより、3名ずつ4グループに分かれて、各々が約10分の作品を創作し、成果発表日に上演。他にも、東野祥子振付作品の出演者として稽古を重ね発表。

■**日程**: オーディション WS 8/29(月) クリエーションワークショップ 9月3日(土)~10日(土)

成果発表公演 9/11(日)13:00/15:00(2回公演)

■**会場**: ダンススタジオ MOGA

■**成果上演参加者**: 大学生10人/社会人2人 ■オーディション WS 参加者数 25人 ■観客数: 72人

■**事業の成果**: コロナ禍のため、ここ数年実現できていなかった県外で活躍されている振付家の招聘を実現することができた。<創る> <観る> <体験する> の3つの視点で、愛媛・松山で若手振付家や観客を育成していくための土壌が築けたことは大きな成果だった。

■**課題**: 今回、若手振付家を育成することを目的にしていたが、本事業を大学生の夏休み期間中に行ったことで、クリエーション参加者には大学生が多く集まった形となった。社会人の参加者も数名はいたが、今回のように平日を含む連続した9日間(5時間程度/日)のクリエーションを行うにあたり、若い世代(20代や30代)の社会人は参加が難しい環境であった。このことに対して、育成対象者の層を増やしていくためには、社会人が参加しやすい環境を整える必要がある。

■参加者の声

◎創作のしんどさはあっても楽しさややりがいの無い日は1日も無かった。自分達が能動的に動ける、創作するための基盤を提供して下さって本当に有り難かった。「自分たちで創った感」を存分に味わうことができ、本番での自信に繋がった。

◎「表現することを恐がらなくても良い。一つの表現に多くを背負わさなくても良い。」ということが強く心に浮かびました。自分が純粋に感じたこと、思ったこと、興味を持ったことを掘り下げていき、自分に正直にまず表現してみるところからやってみる、そして、その精度を周りを巻き込みながら上げていけば良い。そこに失敗はなく、出来上がるもの全てが存在価値のあるもので、選ばれることがあるとすればその時に必要とされる存在のものかどうか、ということなのかも、と思いました。

◎【WS で＜体験する＞】【クリエーションで＜創る＞】【本番で＜観る＞】、そしてそれを振り返る＜語る場＞がある、これだけの短期間でここまで充実した事業を行えたことは本当に身のあることでした。



石川・山代温泉プラットフォーム『空間感覚で広がる演出・振付の世界』

運営：山田企画（報告：山田洋平）

A プログラム ワークショップ

■日程：2022年10月29日、30日 ■会場：山代温泉 専光寺

■講師：建築士（菊池利之）・庭師（山崎広介）・フェルデンクライスメソッドプラクティショナー（工藤洋子）・花人（藤木卓）、制作（山田洋平）

■趣旨・内容：舞台芸術作品を創作する上で、見落としてしまいそうな視点、習慣や慣例、約束事で済ましてしまっている考え方、意識もしなかったモノの見方など、振付・演出の基本を学ぶワークショップ。【目に映るものを全てを舞台空間として考えてみよう】【自分の見方・感じ方の引き出しを増やそう】【空間を知ることによって広がる演出・振付の世界を体験しよう】を目的に、4名の講師がワークショップを行い、それぞれの専門性から見る空間や場所の捉え方を伝えたほか、創作活動の共通点を探っていった。同時に自身の作品を人に伝えるための企画書の意味と基本的な書き方に関する講義を行った。



B プログラム 公演『ココから広がる風景』

■日程：2022年12月17,18日 ■会場：山代温泉 専光寺 ■観客数：80人

■参加者・上演作品：上田尚弘『流転』@専光寺/横谷理香『なんだんす？』@専光寺/大迫健司『ふれる』@ゲストハウス水上/富田祐里『香具屋』@家具センターふなみ跡（北陸地域2名/関東地域2名）

■趣旨・内容：プログラムAで学んだ事を活かしながら4名の参加者が山代温泉でレジデンスを行い、創作活動を行った。参加者はそれぞれバレエ、コンテンポラリーダンス、能、演劇、音楽、舞踏などの経験を持つ。B プログラ



ムの成果上演会場は山代温泉のまちなかにある、お寺や空き店舗など。これまでにサイトスペシフィックな作品・企画を多く行っている山田のファシリテーションを受けながら、創作を行った。また公演終了後にもレポートとして自作の企画書・報告書を作成するなど、企画の立て方から創作、そして報告書までの一連の流れを体験した。

■事業の成果

参加者・振付家は4名。上田は開催地における民話を基に、大迫は町の風景や歴史を題材に、横谷は開催地の他ジャンルの人々と、富田は廃墟ビルの特性を活かして創作を行った。それぞれ会場とそのオーナーとも接点を持ちながら様々な使用許可を得る過程を経ていった。観客もダンス関係者に留まらず、地域住民や舞台芸術に関わりを持たない人々が訪れた。いずれも劇場・美術館の枠外で地域特性、人・社会・環境に繋がりをもった創作を行い、目的を達成することができた。

■課題

①町との連携。劇場外での公演のため町との連携が欠かせない。新進芸術家育成事業を周知し、理解を深めていく必要がある。

②滞在制作は多くの経験と創作に集中できる環境を育成対象者に与えるがその分予算がかかる。継続的な予算確保が課題

③地元住民が舞台作品を見る習慣がないため、定期的に上演を行い集客を安定させるとともに育成対象者との幅広い接点を作ることで集客数を増加させる必要がある。

■参加者の声

◎A プログラムは、身体と物における空間の相違点があったが共通項は多かったし、演出の参考になりました。また、他の参加者の企画書を読んだり、同じ場所で時間を共にしたりしたことにより、互いが触発され影響を受けていた気がします。

◎今回参加することができ本当に良かったです。東京、神奈川、福井、京都のダンスで頑張っているほぼ初めましての方達と一緒に時間を共有できることは、都会では簡単でも、ここ田舎ではほぼ不可能です。

◎今の自分ができることをしたい。企画者や場所とのつながりの中で創作をしたい。これからの創作の種となるような事をしたいと考えて作品を作りました。自分の生きることが作品として成立するようにしていきたいと思います。

◎今回学んだ事を一言で言うと作品に対する責任。作者は、その空間や演者に何が起こっても、作品に対して最後まで責任を持たなければなりません。私にはもっとハプニングを受け入れる器、経験が必要です。作品の精度とともに、今後もさらに精進します。



名古屋プラットフォーム『レジデンスアーティスト育成事業 2022-2023』

運営:ダンスハウス黄金 4422 (報告:ダンスハウス黄金)

■趣旨・内容:本事業は、日本を活動拠点とする若手振付家を育成すること、愛知県内のダンサーや振付家にも質の高い育成プログラムを提供することを目的としている。2名のレジデンスアーティスト(振付家)を選出後、15日間に渡り、ダンスハウス黄金 4422にて愛知県内のダンサーを起用した作品の滞在制作を行い、最終日に成果発表を行った。また、滞在期間中に、舞台芸術に関わる様々な知識を習得してもらう為の照明講座・音響講座・制作講座(1講座3時間)を実施した。



■レジデンスアーティスト・作品:

横山彰乃「オーバーライドする(仮)」黄金 4422 ver / 熊谷拓明「summer-talk」

※それぞれ、公募で地元のダンサーを募り、計 5 名が参加。

■事業の成果: 公募で選出された 2 名のレジデンスアーティストが愛知県在住の 5 名のダンサーを起用し、15 日間の滞在制作で、それぞれ約 25 分の新作を発表した。

■講座のみの参加者 17 人(育成対象者以外) ■成果発表公演入場者 20 人

■課題: 地方において人材育成を行うためには、今後はダンサーや振付家同士のネットワークの構築を図るために当館が地域におけるプラットフォームとしての機能を強化するとともに、継続的に質の高いトレーニングプログラムの提供をしていくことが必要と考える。地域で活動するダンサーや振付家のニーズに合わせて、今後の事業計画を再検討していくことで人材育成に寄与する。地方でこのような育成プログラムを行う際、プロセスに重きを置き、参加者の満足度を高めること注視してしまいがちだが、ダンサーの将来を見据えた支援をするためには再演を行えるような支援体制や他地方のプラットフォーム同士の連携が課題。

■参加振付家の声(アンケートより): 通常の活動の発表では完成度を求められ、ワークインプログレスや“試す”といたことができないでいたが、レジデンスという限られた時間を考えたことで、普段できないそういった取り組みができた。常に一緒に活動していないダンサー、初めて会った人への振付作業で、どのように自分の言葉にしていけるか、新しく人と会うことで改めて考えさせられた。テクニカルの講座に関しては、テクニカルスタッフサイドもコミュニケーションの問題を感じているようで、振付サイドだけが感じていることではないということがわかり、さまざまな現場で工夫していけると感じた。



舞台制作者を知るオンライントーク『私がこの仕事を選んだ理由』

運営: Dance New Air(一般社団法人ダンス・ニッポン・アソシエイツ)、JCDN

振付家を支える「舞台制作」の仕事と魅力を伝えるオンライントーク。現在、30 代~40 代の活躍中、または従事して間もない制作者を話し手に招き、それぞれがこの仕事についての動機や続けている理由などを語っていただくことで、これから舞台制作を目指す若い方々の参考となる場を目指した。

■日程: 2023 年 2 月 6 日~3 月 23 日 各回 19:00~20:30/オンライン(計 7 回のトーク、各回約 60 分+質疑応答)

■話し手: 中村茜、田中希、川崎陽子、目澤芙裕子、林慶一、宮田美也子、森嶋拓

■インタビュアー: 宮久保真紀、神前沙織

■対象: 大学生、高校生を中心に 20~30 代前半、及び舞台制作に関心のある方。

■参加人数: 通し券(7 回)一般 22 人、学生 24 人 / 一回券 一般 18 人、学生 68 人(延べ人数)

■担当: 佐東、神前

■文化庁委託事業「令和 4 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」 ■全体予算: 2,260 万円

2. 文化芸術による被災地の復興支援

三陸国際芸術推進事業 2022 <https://sanrikuarts.com/>

I 三陸国際芸術祭 2022 彩

1 三陸篝火芸術彩（三陸芸能見本市(ショーケース)事業)

三陸沿岸7 地域から豊富な芸能が一堂に会し、篝火の中演舞を披露。

開催日: 2022年9月23日(金・祝)～24日(土) 16:30～20:30

開催場所: 大船渡市防災観光交流センターおおふなぽーと 多目的広場
(一部ピロティ)

参加芸能団体: 7 団体

菅窪鹿踊・剣舞(岩手県田野畑村)、牛伏念仏剣舞(岩手県宮古市)、
鵜鳥神楽(岩手県普代村)、南部藩壽松院年行司支配太神楽(岩手県
釜石市)、喜多七福神舞(岩手県陸前高田市)、大槌町虎舞協議会
(岩手県大槌町)、仰山流笹崎鹿踊(岩手県大船渡市)

出演者数: 152名

来場者数: 約500名

スタッフ数: 43名



2 三陸ブルーラインプロジェクト

三陸の青い海をイメージした数種のタイルと、地元住民や岩手県内小学生のワークショップで制作したタイルアート作品を大船渡市内防潮堤に展示。

展示期間: 2022年9月23日(金・祝)～10月9日(日)、2023年3月11日(土)～5月26日(金)(予定)

展示場所: 夢海公園防潮堤



参加アーティスト: 井上信太

＜オープニングセレモニー＞

防潮堤展示を記念し、地元ビッグバンド演奏や制作へ参加した住民のインタビュー等セレモニーを実施。

開催日: 2022年9月23日(金・祝) 13:00～14:00

開催場所: キャッセン大船渡 コミュニティスペース(雨天により)

来場者数: 約50名

スタッフ数: 19名

＜(関連プログラム) 三陸ブルーラインプロジェクト大船渡 オープニングセレモニー＞

3.11 からの展示を記念し、防潮堤展示の前で地元団体による鎮魂のための合唱等セレモニーを実施。

開催日:2023年3月11日(土)9:00~10:00

開催場所:大船渡町野々田 夢海公園

来場者数:約112名

スタッフ数:25名

3 洋と野に舞う三陸未来芸能彩・芸能彩生ミーティング(次世代芸能者育成事業)

三陸沿岸の若い芸能継承者を対象とし、まちづくり関係者との交流・対話を通し地域の未来に対するモチベー

ション向上を図るミーティングと芸能祭を開催。

開催日:2022年9月10日(土)16:00~18:00、11日(日)13:00~15:30

開催場所:洋野町民文化会館セシリアホール コミュニティホール、大ホール

参加芸能団体:5団体

角浜駒踊り保存会、中野ふじの会、おおの鳴雷太鼓(以上岩手県洋野町)

岩手県立岩泉高等学校郷土芸能同好会(岩手県岩泉町)

岩手県立北上翔南高等学校鬼剣舞部(岩手県北上市)

出演者数:9月10日 77名、9月11日 104名

来場者数:9月11日 394名

スタッフ数:20名



4 三陸芸能彩LINK(文化情報・観光誘発事業)

三陸地域の関係人口拡大・地域の活性化を目指し、三陸沿岸の芸能催事を日英2カ国語でPRし、催事に合わせ地域の文化・観光資源とともに周遊プログラムを提案する。

A コンテンツ開発

三陸沿岸の芸能催事を本芸術祭WEBサイトにて日英2カ国語で発信する。

期間:2022年10月~2023年2月

掲載件数:5件

・おおつち産業まつり(岩手県大槌町)

・七頭舞の里おもて鮭まつり(岩手県岩泉町)

・久慈郷土芸能祭兼北緯40° ナニヤトヤラ連邦郷土芸能交流祭(岩手県久慈市)

・小正月行事(岩手県野田村)

・階上町早生えんぶり祭り(青森県階上町)

B モデルコースまたはモデルツアー開発

三陸沿岸地域における芸能を軸としたモデルコース造成。また在日外国人等によるモデルツアーの実施。

期間:2022年7月~10月

開催地域:モデルコース5 コース(うちモデルツアーは※印3 件の実施)

※若き芸能者と出会う旅(2022.9. 9(金)~11(日))・・・洋と野に舞う三陸未来芸能彩・芸能彩生ミーティング

※彩り豊かな芸能と出会う旅(2022. 9.23(金)~25(日))・・・三陸篝火芸能彩



※おおつち「芸能のまち」と出会う旅(2022. 10.14(金)ー16(日))・・・おおつち産業まつり

・岩泉町「七頭舞の里おもと」と出会う旅(2022.11. 12(土)ー13(日))・・・七頭舞の里おもと鮭まつり

・久慈「神楽」と出会う旅(2023.1. 20(金)ー22(日))・・・久慈市郷土芸能祭兼北緯40° ナニヤトヤラ連邦郷土芸能交流祭

芸能観光パンフレット(青森県八戸市から岩手県宮古市までの芸能・文化施設や宿泊施設を紹介)、モデルツアーレポートをまとめたタブロイド紙を製作。



Ⅱ 三陸芸能短期留学(アーティスト・イン・レジデンス(A.I.R.))

三陸芸能短期留学(アーティスト・イン・レジデンス(A.I.R.))

国内外の現代芸術家等が三陸で郷土芸能を学びながら、自身の創作活動等行うアーティスト・イン・レジデンス・プログラム(A.I.R.)。1週間、三陸沿岸地域に滞在し、自身の創作活動等を行いながら芸能伝承者から芸能を習った。

1 青森県八戸市／階上町

期間:2022年11月11日(金)～18日(金)

習った芸能:八戸市・・・鮫神楽 階上町・・・平内鶏舞

参加アーティスト:赤丸急上昇(赤松美智代・丸山陽子)(コンテンポラリーダンス)、長谷川 暢(ダンス／和太鼓)



2 岩手県山田町／大槌町

期間:2022年11月21日(月)～28日(月)

習った芸能:山田町・・・愛宕青年会八木節 大槌町・・・臼澤鹿子踊

参加アーティスト:四戸賢治(ダンス)、大月 侑(ダンス)



3 岩手県野田村

期間:2023年1月9日(月)～16日(月)

習った芸能:大黒舞、なもみ

参加アーティスト:柴田智之(演劇)

Ⅲ 三陸芸能マッピング事業

三陸国際芸術推進委員会構成団体15 市町村に対し、芸能マッピングに掲載されていない芸能団体の情報提供を依頼。現在7 市町村からの提供130 団体の情報を「三陸芸能マッピング」WEB ページへ追加。

Ⅳ 三陸国際芸術祭 2014-2021 記録集「三陸×アジア、未来へ」の増版及び配布

3000 部増刷。東北地方の観光関連施設の他、全国の美術系大学図書館や公立図書館など、1500 冊を送付、寄贈。

■担当:佐東(全体プロデューサー) ■現地制作:葛谷・岡田、他(岩手事務所)

■『三陸国際芸術祭 縦』:文化庁令和4年・日本博

■『三陸芸能短期留学』『芸能マッピング』:

文化庁令和4年戦略的芸術文化創造推進事業

■全体予算:3,977 万円



3.「すべての人がダンスと出会う」機会を作る、コミュニティダンス

こちかぜ(東風)キッズダンス

—東山区発の、ダンスによる子ども育成を通じた地域力創造プログラム 2022—

＜経過＞ 2014年6月、京都市東山区・東山いきいき市民活動センターを拠点にスタートした、周辺地域(東山三条)の子どもたちとのコミュニティダンス・プロジェクト。活動3年目の後半から、公募で集まった子どもたちと三条学童保育所の子どもたちが一緒にワークショップに参加するようになり、継続9年目を迎えます。

とても元気でエネルギーな東山の子どもたちは、“東からふく風”＝東風(こちかぜ)キッズと名づけられ、ダンスはもちろん、衣裳やチラシの素材など、アーティストのナビゲートのもと、子どもたち自身のアイデアを活かして自由にのびのびと創造する場になっています。

＜内容・成果＞ ＜春編＞＜夏秋編＞ではそれぞれ、2年ぶりにお祭りでのショーイングが復活し、＜春編＞は「左京東山児童館学童保育所まつり2022」、＜夏秋編＞は「三条まちづくりフェスタ2022」の特設ステージにて、久しぶりに発表を行う事ができました。初参加の1年生はもちろん、2・3年生にとっても初めてのステージ体験となり、緊張と高揚感に満ちた時間でした。

また、＜冬編＞は「初めましての、こちかぜワークショップ！」と題して、「こんなダンスもあるんだ!」「こんな音楽もあるんだ!」をからだを通して感じてみるワークショップシリーズを3回行いました。初回に韓国伝統舞踊・音楽のスペシャルゲストを招き、ダンスとのコラボレーション・ワークショップを行ったほか、2・3回目は、こちかぜキッズダンスのナビゲーター、サポートダンサーが、各々の振付作品のレパートリーを子供たちに披露して、感想をシェアしたのち、レパートリーの一部をワークショップで踊ってみるという9年間で初めての試みにチャレンジしました。小さい子ども大きい子ども、各々が初めて触れるちょっと変わった振付を、興味津々といった様子で楽しんでいました。

また、9年間こちかぜキッズダンスに継続して参加している中学生たちが、ワークショップに参加して子どもたちのサポートを行ったり、小道具作りのワークショップでアイデアを出したりと、大活躍。「まちづくりフェスタ2023」では初めて、ナビゲーターのまほさん、サポートダンサーのハルさんユカさんというプロのダンサーと一緒に、舞台出演を果たしました。この中学生2名とナビゲーター・セレノグラフィカさん等との座談会を始めて行い、PHOTO DOCUMENT・報告書⑨に収録しました。

何年継続していても、1年ごとに新しい経験や感覚を得て成長している子どもたちの様子が感じられます。子どもの1年がどのように貴重なものなのかも実感する1年となりました。詳細はぜひPHOTO DOCUMENT・報告書⑨をご覧ください。

＜実施概要＞

【メインプログラム(公募ワークショップ)】(2022-2023)

期間: 4月16日～2月25日(計17回)

ワークショップ会場:京都市東山いきいき市民活動センター 多目的ホール他

対象:京都市三条学童保育所の小学生(1年生～4年生)、近所の子どもたち

公募参加者/4歳から小学6年生(経験問わず、だれでもOK!)

参加者数:延べ250人

【PHOTO DOCUMENT & 報告書】写真と言葉による記録集を製作

©2022 プロジェクトメンバー

【ワークショップナビゲート・作・演出】セレノグラフィカ(隅地葉歩・阿比留修一)

【サポート・アシスタント】大谷悠、内田結花 [アシスタント] 佐々木健二郎、千代その子、高木喜久恵、佐藤野乃子

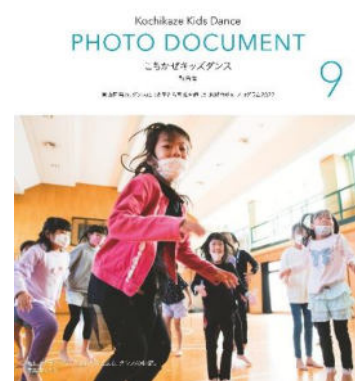
【写真記録】草本利枝

【企画・制作】神前沙織(JCDN) [制作協力] 岡本卓也、井手葵唯(京都市東山いきいき市民活動センター)

【特別協力】京都市三条学童保育所 岡崎先生、西本先生、野口先生、橋本先生、篠原先生

■担当:神前 ■令和4年度京都府地域交響プロジェクト交付金 令和4年度子どもゆめ基金助成活動

■予算:180万円



ウェブサイト・コミュニティダンスのすすめ

— Community Dance in Japan on web

日本のコミュニティダンスのあらゆる情報を集約する、情報ポータルサイト。

コミュニティダンスに関わる個人・団体であればだれでも登録でき、自身の活動をこのサイトで告知することができます。コミュニティダンスの場を求めている方や、どこにどのような人材がいるか知りたい方のための情報検索、研究者の論文掲載など、コミュニティダンスに関わる方々の情報を集約し発信していきます。

<http://cdjjcdn.org/> 2022 年 4 月 25 日、リニューアル OPEN！！



<リニューアル後の主な機能について>

- ・コミュニティダンスに関わる個人・団体であれば誰でも登録でき、自身の活動を告知することができます。
- ・登録者(掲載者)は初回のみ ID と PW を入手いただく必要がありますが、その後は同じ ID と PW で公演やワークショップの登録を行えます。また、プロフィールやロゴ等を登録可能なほか、「この記事を書いた人」の「最近の記事」という表示で、登録者別の記事閲覧ができます。
- ・全ての記事は、地域別、活動分野別、公演またはワークショップなどの種別等での検索ができます。
- ・登録者(掲載者)と別に、ファシリテーターを登録する機能があり、サイト訪問者が、ファシリテーター一覧やファシリテーターごとの記事の検索ができます。
- ・「コミュニティダンスのススメ」LINE アカウントと連動した情報告知機能があります。
- ・他に、インタビュー、事業報告書、海外の事例(調査報告レポート)、研究論文 などの記事投稿も可能です。

■担当 神前 ■サイト製作(リニューアル): creative unit DOR デザイン: 西谷デザイン ■イラスト: 梢夏子
■助成: 長谷福祉会 ■予算: 40 万円

4. 子どもたちの創造力・表現力・コミュニケーション力を育む、創造的なダンス教育の普及

令和4年度文化庁「文化芸術による子供育成推進事業 ーコミュニケーション能力向上事業ー」＜NPO 法人提案型＞

からだを使ったコミュニケーションや創作方法である“ダンス”を通じて、児童生徒の創造力・想像力・コミュニケーション力の向上を目的に、アーティストが学校へ出向いて行うワークショップをコーディネート。令和4年(2022年)度は、前年度に同じ大阪府堺市・沖縄県・滋賀県大津市の3地域 計11校で実施しました。

＜実施内容＞実施順

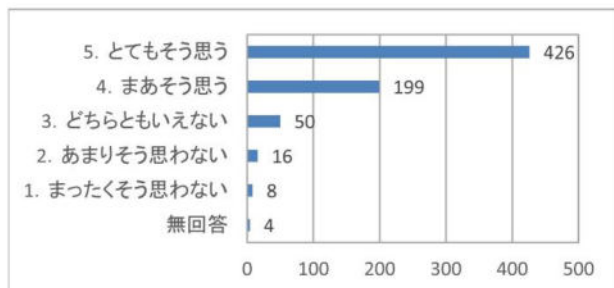
実施日	地域	実施校 (対象児童生徒数)	◎講師 ●補助者	実施内容、児童生徒・先生の反応や感想等
6月8・ 13・27日	堺市	堺市立 原山ひかり 小学校 (5・6年生各 2クラス130 名)	◎鈴木英理子 ●小堀愛永、 庄波希	5・6年の4クラスを45分ずつを1日として3日間実施。授業を通して、自分とひとの身体を知る、自分の身体は自分で守る事を伝え、ペアやグループ組みに工夫しながら様々なワークに取り組み、普段と違う関係作りや無理なく児童の表現を引き出した。 (教員の感想)「コロナ禍で人との距離を取ることが長い間続いているが、今回人とふれあう体験ができたことは、生徒たちにとっては、とても新鮮だったように見えた」「みんなとても生き生きとして見え、あの生徒がこんな動きをするんだとか、本当にちゃんと参加できるだろうかと思っていた生徒が、しっかり場に溶け込んでいた。」
7月11 ～13日	沖縄県	与那原町立 与那原東小 学校 (6年生3ク ラス103名)	◎田畑真希 ●城森あゆ み、兼城将	6年生3クラス60分ずつを1日として3日間行う。自分で表現することの楽しさと、人と一緒にダンスを作ることの面白さを知ることによって、積極的にコミュニケーションが取れることを目的に行う。事前に先生から聞いていたよりも、とても積極的かつ集中力があり、講師も、予定していたよりももっとハードルの高いことに挑戦した。とても良い雰囲気だった。
9月7～ 9日	沖縄県	石垣市立 野底小学校 (全校児童 21名)	◎マニシア ●DAI(ジャン ベ演奏)	全校児童21名合同で、90分×3日間実施。最終回に保護者参観で成果ショーイングを行う。恥ずかしがりが多く、心と体を開放して、子供たちのコミュニケーション能力の向上、自己肯定感を高める機会にする。楽しさから思わず表現が出るようなワークを積み重ねながら、シーンを創っていった。思いのほか「恥ずかしい」の壁が厚い子供たちであったが、日を追うごとに皮がむけて表情も明るくなっていった。 (教員の感想)「もっと緊張するのかなと思ったら、いい方向に向かった。最後の感想も、いつもなら手が挙がらないのに、今日は挙がった。なんでも自由にしていいいところ、自分の殻を破るきっかけになったのではないかな。」
10月 13・18・ 20日	大津市	大津市立 唐崎中学校 (2年生4ク ラス131名)	◎鈴木英理子 ●小堀愛永、 庄波希、高橋 芽生子	2校時を使い、2クラス合同×2回(全部で4クラス)を1日として3日間実施。1人1人のポーズで空間構成するグループワークでは、生徒間コミュニケーションの活発化だけでなく、見守る先生方の生徒への声かけも多く引き出すことができた。

10月 25・28日 11月1日	堺市	堺市立 光竜寺小学 校 (1・6年生各 1クラス42 名)	◎小堀愛永 ●庄波希、衛 藤桃子	6年生は2校時を使い、1年生は60分程度を1日として、3日間実施。ことばからイメージした個々の動きをグループメンバーでつないだ作品創作して、最後に発表した。 先生との協働がうまく行き、先生からのアイデアをうまく取り入れることができた。
10月26日	大津市	大津市立 北大路中学 校 (2年生4ク ラス123名)	◎セレグラフィカ (隅地茉歩・阿 比留修一) ●佐藤野乃 子、新家綾、 西岡樹里、内 田結花	中学2年生4クラス123名。通常は3コマを3日間で行うが、特別に1日にまとめて、全員で実施。学年のコミュニケーション力を高めることがねらいで、校外学習として校外の体育施設を借りて実施した。毎年たくさんの反響があり、学校行事として定着させたい希望も伺った。 (教員の感想)「普段は自分からなかなか話せない子も自発的に動いていて驚いた」「生徒らは、特にLINEでのトラブルが多い。言葉だと誤解が生まれたりするが、この経験をきっかけに、生徒同士が別の一面を知る機会になったのでは。」「最後のパフォーマンスは感動的!!」「こんな効果があるなら私たち教師も毎日ダンスしたらええんや。」
11月 14・16・ 17日	大津市	大津市立 伊香立中学 校 (全校生徒 32名)	◎東野祥子 ●松木萌	2校時を使い、全生徒(31人)を対象に3日間実施。自分を表現することに焦点を当てて実施。講師が語るストーリーに反応して動きを考え、リーダーを真似るグループワークでは、生き生きとした個性豊かな表現が生まれていた。 全校生徒対象の授業のため、見守る先生がたくさん来られ、創作ダンスのよさを実感してもらったいい機会となった。
11月29日～12月1日	沖縄県	うるま市立 高江洲小学 校 (4年生3ク ラス89名)	◎赤松美智 代、丸山陽子	小学4年生3クラス89名のため、1クラス60分ずつに分けて3日間実施。元気いっぱいだが落ち着きがない集団で、コミュニケーションに関わるワークを多く取り入れた。担任の先生が忙しく、コミュニケーションに苦労した。児童は非常に活発で生き生きと取り組み、素直な身体と創造性をたくさん見せていた。どのワークも楽しかった様子で、授業後に、あんなに話を聞けなかった男の子が、講師のサインをもらうために列を作って並んでいて、微笑ましかった。
12月2・ 5・6日	沖縄県	糸満市立 真壁小学校 (5・6年生各 1クラス55 名)	◎知花幸美 ●上原里佳、 兼城将	小学5・6年生55名。やや多いため、5年生と6年生で2グループに分かれて計3日間実施した。初日はスクワットや真似ダンスなど運動量の多さにくたびれた様子だったが、それぞれが真面目に取り組み、最終日には殻を破る姿も見られた。
12月6・ 12・13日	堺市	堺市立 東深井小学 校 (3年生3ク ラス97名)	◎田中幸恵 ●貫渡千尋、 山本和馬	1クラス70分×3クラスを1日として、3日間実施。呼吸を合わせるペアワークや触って抜けて、ティッシュを使ったワークなどを行い、最後は各クラス3チームに分かれて作品創作、ショーイングを行った。(教員の感想)「困難さを抱えた児童が多い地域だが、今回のダンス授業でいくつか児童との関りのヒントが得られた。今後の授業や学校生活に活かしていきたい」
12月7 ～9日	沖縄県	南城市立 知念中学校 (1年生38 名)	◎合田緑 ● 根岸由季、城 森あゆみ、兼 城将	中学1年生38名全員で取り組む。ダンスに抵抗感があるため、「これがダンスなの?」というところから初めて創作を重ねていき最終日にショーイングにチャレンジする。思っていたより反応がよく、初日から短いダンスが仕上がった。ショーイングは他教科の先生方に見ていただいた。初めて取り組んだと思えない出来で、校長先生には「保護者の方にも全員に見ていただきたかった!」、取材に来ていた地元紙の方には「今年は特にイキイキしているね!」とほめていただいた。

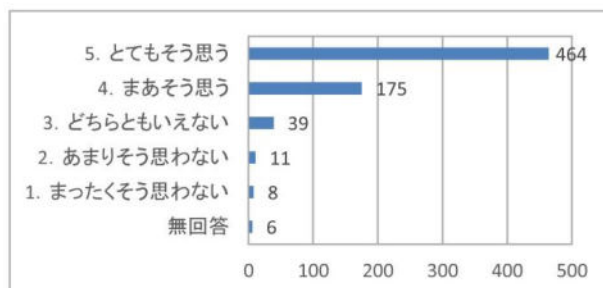
【児童アンケート】 回収 703枚（男328名、女375名、/合計11校中回収できたもの）

質問 ダンスのワークショップに参加してみて、どうでしたか？

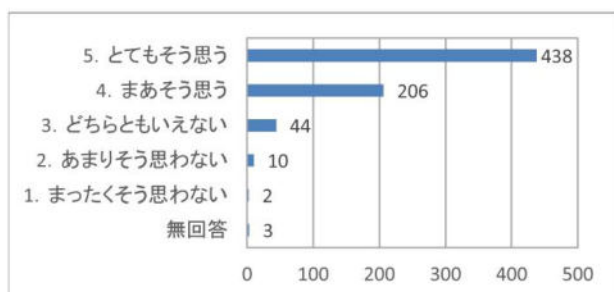
1)満足しましたか？



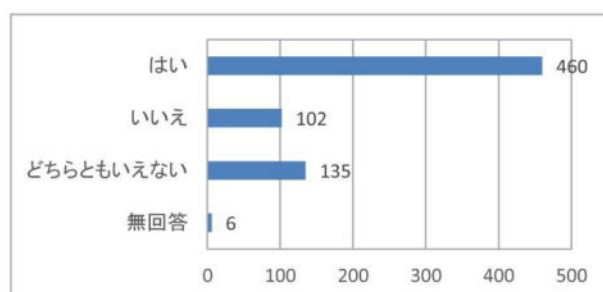
2)楽しかったですか？



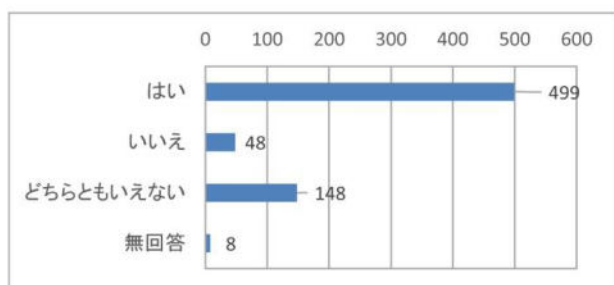
3)説明はわかりやすかったですか？



4)いつもと違う友達の様子を見つけましたか？



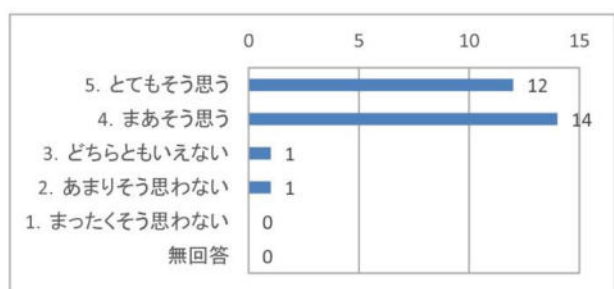
5)また参加してみたいですか？



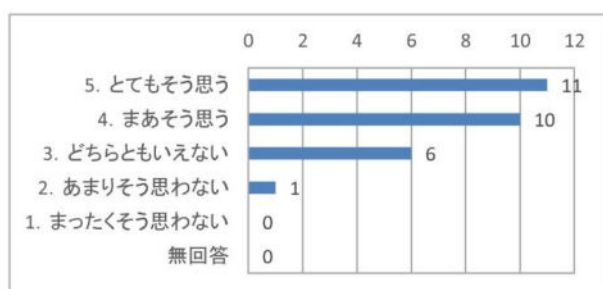
【教員アンケート】 回収 28枚（計10校）

質問① 児童の様子について、下記の項目に1～5段階でお答えください。

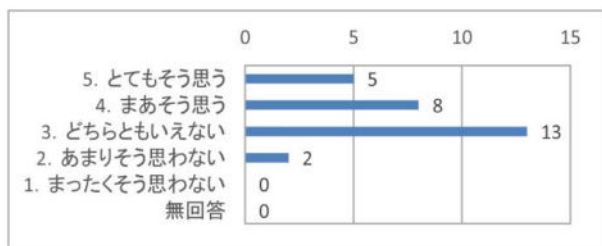
1)子供たちの豊かな自己表現がみられた。



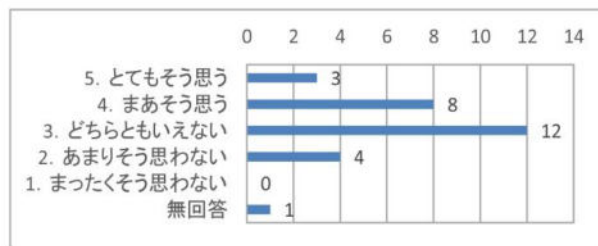
2)普段に比べて、子どもたちが自発的に参加していた。



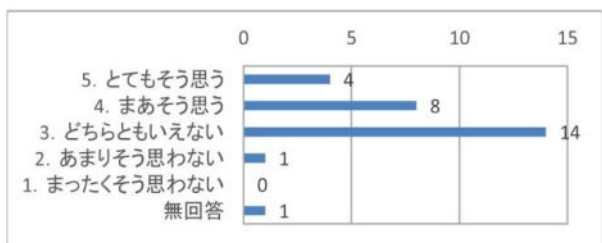
3)子供たちが、自分の行動や発言に自信を持つようになった。



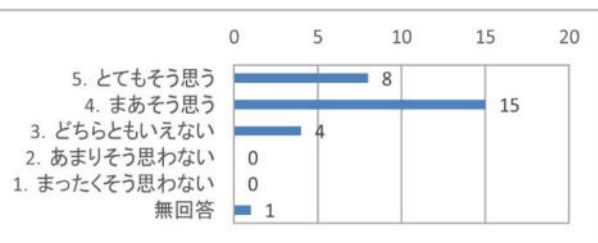
4)クラスの中で、子どもたちの関係性が変化した。



5)以前より協調性が生まれた。

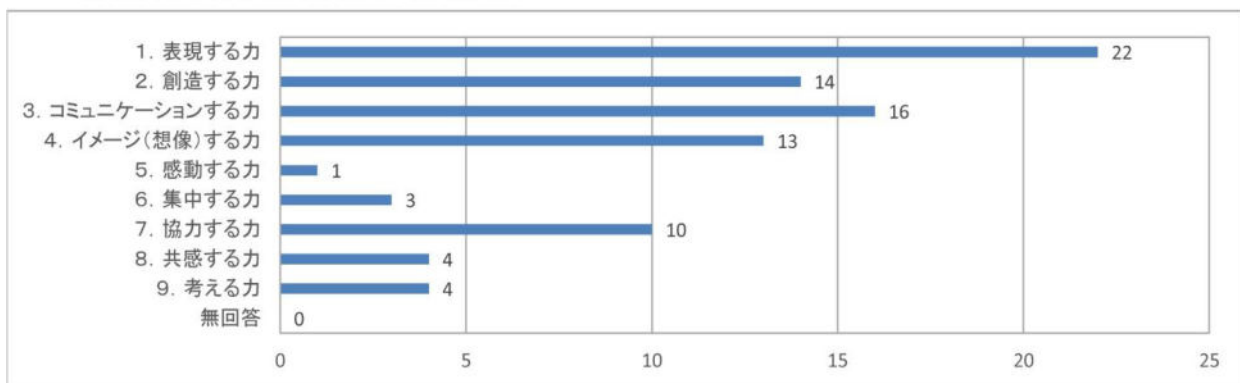


6)今まで知らなかった友達の良さや特徴を発見した。



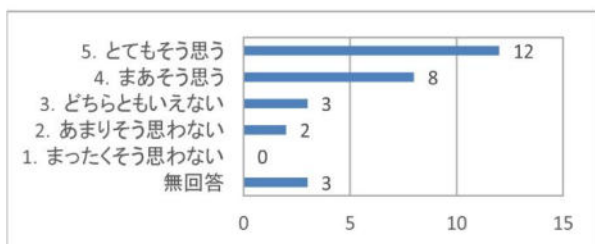
質問② このワークショップが、児童生徒のどのような能力を育むことに効果が高いと思いましたか？

(下記の中から当てはまる上位三つに○をつけてください)

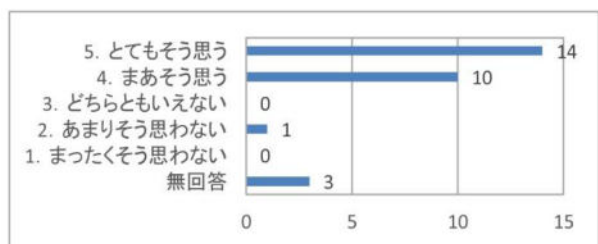


質問③ 先生ご自身について、下記の項目に1～5段階でお答えください。

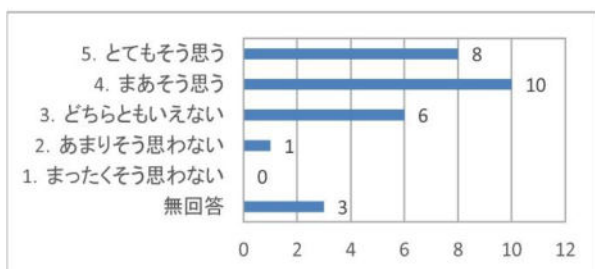
1)ダンスアーティストの考えやワークショップ方法を知ること、
普段の授業に活かすためのヒントを得ることができた。



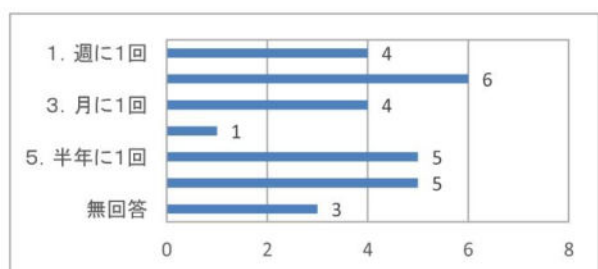
2)いまだに知らなかった子供たちの新たな面を発見した。



3)今後のクラス運営に役に立つことを得た。



4)どのくらいの頻度で行えば定着すると思いますか。



■コーディネーター: 神前・西田

■令和4年度「文化芸術による子供育成総合事業ーコミュニケーション能力向上事業ー」(文化庁) ■予算:440万円

京都府「学校・アート・出会いプロジェクト」

「学校・アート・出会いプロジェクト」は、京都府内の児童生徒に対し、質の高い文化・芸術を体感する機会を提供することにより、豊かな心を育成するとともに、京都の文化・芸術の振興と次世代への継承を図ることを目的として実施されている。JCDN は体験プログラム(表現力・創造力・コミュニケーション力を高めるための創作ダンス)と鑑賞プログラムを登録していて、R4 年度は下記 1 校からの応募があり実施することとなった。

「学校・アート・出会いプロジェクト」特設サイト <https://kyoto-zisedai.jp/>

【日時】 7 月 12 日、9 月 14 日、9 月 22 日、9 月 26 日 全 4 回 (1 回約 90 分)

【対象】 木津川市立南加茂台小学校 3、4 年生 47 名

【アーティスト】 野村香子・合田有紀

＜実施内容＞

- ・1 回目: 児童と先生に創作ダンスを知ってもらうこと、子どもたちと出会うためのワークショップ。先生からの希望で、ダンサーが用意した曲と振付を踊る時間をつくった。
- ・2～4 回目: 学校側から提示のあった曲の振付を講師が考案し、授業にて振り渡し、体育祭の本番に向けて練習を行った。児童それぞれが創作した動きなど、創作の要素を取り入れた。



＜成果と課題＞

学校からの実施希望調書には、要約すると、①児童の表現力、想像力、コミュニケーション力を高める、という児童に焦点が当たったものと、②保護者、地域の方々に披露できることを目標に、(体育祭の出し物の振付)をしてほしいという要望の 2 点が書かれていたが、①については、最初にこちらから曲の案と振付案を提示して、コンテンポラリーダンス(創作ダンス)を知ってもらうためのワークを行うことができた初回のみで、学校側からこの曲(back number の「水平線」)で踊りたい、ということとグラウンドで踊るので大きく見える動きを、という要望を受けた 2 回目からは、②が中心に進めざるを得なくなった。そこで、振付を児童に渡ししながら、②の課題に取り組む中で、少しでも①の要素も取り入れて進め、同時に教師のコンテンポラリーダンスへの理解も深めようと試みた。

結局、どちらかと言えば、①で進めたいコーディネーター側の自由度はほぼなく、コンテンポラリーダンスの持っている力を活かせる場を創り出すことは難しかった。しかし、講師が振付の中で自分なりの動きを取り入れられるよう考案してくれたこと、歌詞を活用し音楽にのって気持ちよく踊る楽しさを得られる振付となっていて、上演する作品の仕上がりとしては、とても見栄えのあるものになっていた。

コロナ禍によっていろんなことの見直しがなされる中、学校の行事自体もこれからいろいろ見直されていくとおっしゃっていたが、このような状況下で、アーティストと教師の協働の進め方も見直されていくと良いと感じた。1 回目以降は、ワーク終了後 20 分程度の振り返り時間しか持てなかったが、最後に今回の協働で、先生方にも、「教師とは違う、児童に伝えることば、児童から表現を引き出すダンサーの力」について学びがあったことを話していただいた。

■コーディネーター: 西田・神前 ■予算: 約 33 万

5. コンテンポラリーダンスを用いた、社会的課題への取り組み

「創造的なダンスによる、子どもはぐくみプロジェクト 2022」

(旧「創造的なダンスを用いた、児童青少年の自己肯定感向上プロジェクト」)

2018年から2019年に行った「創造的なダンスを用いた、児童青少年の自己肯定感向上プロジェクト」の体験活動実施先でのワークショップ活動のみを継続。本事業では、何かしらの理由で創造的なダンスの場に出向くことが難しい子どもたちがいる場所へ体験活動の場を拡げ、子どもたちの成長の一助とすることを目的としている。

母子生活支援施設でのダンスワークショップ2022

【期間】2022年10月から翌3月まで ※計9回、1回120分

【対象】母子生活支援施設で生活している1～6年生及び幼児

延べ19人(一時入所の子も含む)

【アーティスト】鈴木英理子、花沙

【サポートアーティスト】高橋芽生子(10/4、24のみ)

【ゲストアーティスト】隅地茉歩、阿比留修一(12/26のみ)



＜経過＞ 母子生活支援施設は、18歳未満の子どもを養育している母子家庭、またはさまざまな事情で離婚届ができていないなどの母と子が利用できる児童福祉施設で、DVなどの深刻な状況に置かれた母子を一時的に保護するシェルターでもある。施設側は、身体を動かすことによるプラスの要素に着目しており、継続してプロのダンスのアーティストに関わってもらう機会を望んでおられた。

＜実施内容＞ 当該施設での活動は4年目となり、今回から施設側・JCDN側とも担当者が変わり、メインのアーティストも前年度までアシスタントの2人が務めるという体制で行った。また、助成金の仕様変更で一部の時間帯は幼児さんも加わる形で行わざるを得なくなった(安全面での配慮で難しい場面もあった)。参加者の特徴としては、元気な1年生男子4人が加わったことで、全員がお互いにちょっかいを出していつまでも会場を走り回り、そこに2年生の男子もからんできて、手も足も出る状態になってなかなかダンスモードにならない。それを見かねて、2年生の女子が止めに入るが、結局巻き込まれて一緒に走り回ることに。さらに、恥ずかしさもあって施設職員や実習生にまわりつくというのが大雑把な、特に最初の頃の特徴だった。そこで、4回目からは少し視点を変えて、例えば、一緒に参加してくれる実習生の協力を引き出す工夫をしたり、セレノさんの進行の仕方をお手本にしたりして、特に新年を迎えてからは、真似ダンスをうまく活用して、振り付けパートも加え、踊り続けることもできた。

＜成果・課題＞ ・施設職員からは、「最初は恥ずかしがっていたが、真似ダンスの時には自分もリーダーをやりたいと前に出る姿が見られ、徐々に見られることにも慣れてきた」「1年前は部屋に入れなかった子どもが、部屋の中にいるだけでも大きな進歩だ」といった変化が語られた。幼児さんについても、「それ知ってる、前やった」と笑って答えたり、「今日はダンス？」と訊いてきたり、楽しみにしている様子が窺える」とのことだった。(西田)

・ワークショップに集中できない理由は人それぞれで、特殊な環境下にある子どもたちならではの特性かもしれない。また根気よく続けることが何より大事な事だと思うが、助成金の要件が厳しすぎて、同じ助成金では続けられない事になった。最終日の帰り、1年生から参加していた男の子が帰っていく私たちを見つけて、「バイバーイ！また来てねー！！」と叫んでくれた言葉が忘れられない。どのように継続できるのか、模索していけたらと思う。(神前)

■担当: 西田・神前 ■令和4年度子どもゆめ基金助成活動 ■予算: 31万円(未使用分は返金)

6. その他、講習・政策提言・アドバイザー等

・2022 年度公共ホール現代ダンス活性化事業 コーディネーター(神前)

担当地域：(8 月)京都市 A プログラム@京都芸術センター (11 月)千葉縣市川市 A プログラム@市川市文化会館

・2022 年度 (財)地域創造調査研究部門委員(アウトリーチに関する研究調査)(神前)

・令和 4 年度 文化庁長官表彰受賞(佐東)

II. 会 員 部 門

1. コンテンポラリーダンスに関わる情報の発信

JCDN 会員サービス等

<JCDN 会員の種類と対象>

①アクティブ会員(個人/団体/U25) 個人：一口 5,000 円(U25 3,000 円)／団体：一口 10,000 円

対象：JCDN の目的に賛同し、活動を推進することを目指すアーティスト・プロデューサー・評論家・研究者・ライター・スペース・ホール・美術館・企業・財団・自治体・大学・NPO などの個人・団体

※法人格を持たないカンパニー等は個人で入会可。

②サポート会員(個人/団体) 個人：一口 10,000 円／団体：一口 20,000 円

対象：JCDN の事業を賛助・支援する個人・団体

③ダンスコミュニティ会員(個人のみ) 個人：一口 3,000 円

対象：JCDN の活動に共感する個人。ダンスの情報が得られることによって、ダンスを身近なものとし、楽しむための機会を増やします。

<2022 年度 JCDN 会員数> 合計 120 名/組

【現在有効期限会員】 アクティブ個人 70 名、団体 24 組/サポート個人 4 名、団体 1 組/ダンスコミュニティ個人 11 名

【休会会員】(最長 2 年間) アクティブ個人 9 名 /ダンスコミュニティ個人 1 名

※そのほか、JCDN 役員・スタッフ等(過去も含む) 8 組

JCDN 会員サービスについて

アクティブ・サポート・ダンスコミュニティ会員それぞれに、ダンスを社会に広めるための様々な支援サービスを行っています。特に、JCDN アクティブ会員対象のサービスはサポートを充実させています。

	アクティブ	サポート	コミュニティ
オンライン ダンス・ミーティングの場のセッティング	○	○	
オンライン 月 1 ダンスミーティング	○	○	
JCDN メールマガジンの配信 (月 1 回)	○	○	○
JCDN メールマガジンへの投稿 (月 1 回)	○	○	
公演・ワークショップ情報の送付 (DM)	○	○	○
JCDN 主催事業・関連事業の割引、及び会員主催のダンス公演等の割引	○	○	○
JCDN 総会 (年 1 回) への参加資格	○	○	
主催事業の報告書等の送付	○	○	○
JCDNweb「MEMBERS」ページでの活動紹介★	○	○	
JCDNweb「NEWS」ページでの公演、ワークショップ等の活動情報掲載 ★	○	○	
サポート会員からの企画や JCDN に対しての提案などを話し合う機会を設ける		○	
DM 同封サービス (無料/年 2-3 回程度/不定期) ★	○		
助成金情報などの提供、各活動に必要な情報の提供や相談など ★	○		

(★=詳細は、会員更新・新規申込時にご案内しておりますが、随時、遠慮なくご連絡ください。)

■会員専用メールアドレス : jcdnmembership@yahoo.co.jp ■担当: 西田